

田岡化学工業株式会社
2026 年 3 月期第 2 四半期（中間期） 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2025 年 11 月 13 日（木）14 時～14 時 30 分

当社説明者： 取締役社長 岩崎 明
常務理事 事業支援室長 堀内 真二

[説明内容]

11 月 13 日に開示した全 16 ページの PDF に沿い説明。

https://www.taoka-chem.co.jp/ir/note/202603_2_briefing.pdf

[質疑応答内容]

<業績について>

質問 1 精密化学品事業の売上見通しは上期と下期で同水準となっているが、樹脂原料についても同様の見方でよい。また、樹脂原料は今年度大きく伸びたが、来年度はどの程度伸びる見通しか。

回答 樹脂原料についても、上期と下期で同水準の売上を見込んでいる。
来年度の樹脂原料の売上は、スマートフォンの需要動向は横ばい又は若干の増加という見方がある中で、顧客の今後の生産計画が焦点になると考えており、在庫状況や今後の製品の伸長なども含め、顧客と協議していくことになると考えている。

質問 2 来年度は売上の伸びが限定的と考えられる中、どのように利益を伸ばしていくつもりか。

回答 樹脂原料については新規グレードの開発による付加価値の高い製品の供給を行うほか、それ以外の製品についても数量面の伸長や合理化を推進するなど、中期計画に沿って収益力向上に向けた諸施策を実施することで、全体としての利益を伸長していく計画である。

質問 3 1Q から 2Q にかけて売上が伸びている一方、利益が若干下がっているのは何故か。また、上期から下期にかけて売上が微増となる一方で、利益が下がる見通しとなっているのは何故か。

回答 7月より給与改定に伴う労務費の増加と、5月より播磨新工場が稼働したことに伴う償却費の増加といったコスト面での要因により、2Q 利益は 1Q 利益に比して減少している。

同様に、下期には設備のメンテナンスや試作を行う予定であり、下期のコストが若干増加する見通しである。多目的プラントを主体とする当社では、製品の生産計画によって、このように若干のコスト変動を伴う局面があることについてご理解頂きたい。

<稼働状況について>

質問 4 上期と下期で樹脂原料の売上は変わらない見通しとのことだが、工場の稼働率はどうのような状況か。

回答 樹脂原料の製造プラントについては概ね高稼働で推移しており、メンテナンスや設備改造の時期等を除き、ほぼ製品製造の用に供している。

以上